

## ■新春記者会見（令和5年1月11日） 質疑応答要旨

【記者】 保育支援システムについて、県内でほかの事例があるのか知りたい。また、昨年導入したL o G oチャットの活用が現在どうなっているのか、今回のシステム導入によりどのような効果があるのか。

【市】 近隣では春日井市、犬山市も導入しており、現在県内では本市を含めて10市近くが導入している。また、L o g oチャットについては子どもの数が多い大規模な保育園で先行導入し、日々の申し送り事項等を保育士間で共有し、有効な活用ができています。今後、全公立保育園で運用を開始したい。

保育システムの導入については、子どもが登園・降園する際にQRコードを用いて打刻をすることで園の中で登降園の状況が確認できるほか、アプリで24時間欠席連絡ができ、園からの一斉お知らせ配信も可能となる。

【記者】 登園したことが確認できるということは、例えばバスに取り残されるなどの事例を防ぐ効果もあるのか。

【市】 登降園の管理については、通園送迎バスの園児置き去り事故を受け、登降園のシステムに補助制度を設けるなど、今後標準化していきましょう。散歩など園から出る際も今のシステムではいろいろ操作が必要なため、今すぐ活用することはできないが、現時点で登園、降園だけの管理を実施する。（※本市の保育園で送迎バスの運用はありません。）

【記者】 救助・救急要請での搬送困難事例について、どのような事例があったのか、また死亡事案につながったものはあるのか。また、隊員が新型コロナに感染し出動部隊が減った状況も影響するのか。

【市】 新型コロナの傷病者の搬送困難事案については、ほぼ発熱症状や呼吸困難を伴う症状で、市内で死亡に至る事案は起きていない。遠方では安城市のほか、愛知医科大学病院（長久手市）や岐阜県の総合医療センターに搬送する事案もあったが、救急車内で重篤に至った事案はない。

隊員の新型コロナ感染については、活動中に感染したという事案はないと認識している。ただし、市中感染や家族感染等により多数の職員が感染したことで救急活動や消防活動の定員が若干足らず、本部職員が一部現場に回って勤務した。現在は、正常に戻っている。

【記者】 普段の救急活動で岐阜まで行くことはあるのか。

【市】 岐阜など遠方に行く救急活動は主に病院間の搬送で、通常の救急要請に対して県外へ運ぶことはない。コロナ禍に限った事案である。

【記者】 安城市まで搬送した事案は、市内や名古屋市内など何か所も転々としたのか。

【市】 この事案については、ほかの病院が全て受入不可能と確認が取れ、当時は保健所から指示もあったため、病院への問い合わせは4回と少なかった。ただし、県外（岐阜県総合医療センター）に搬送した事案では最高19回の問い合わせで病院が決まったというのものもある。